

課題発見ゼミナール 葭森クラス希望者：11名

私は将来、徳島で公務員になりたいと考えている。そのために徳島の魅力や問題点を自分で発見することは、役に立つと思う。実際に徳島について真剣に考えながら歩くことはなかなか無い。私が魅力的に不思議に感じた徳島について詳しく調べたい。さらに、グループとして課題に取り組むことで、私が目を向けていなかった点に気がつくことができるだろう。徳島についてよりよく知ることは、徳島の活性化につなげることができる重要な第一歩となる。私はこのゼミで研究することにより、その一歩を深く踏み出したい。

徳島県内で公務員として就職を考えているので、地元のことをより知るためのいい機会であり、見ず知らずの人に話を聞くことに慣れるためにもなる。問題点を見つける実践にもなるから。

私は、大学で歴史学を研究していきたいと考えています。ですので、歴史学の先生のもので、課題を調査し、まとめ、報告する力をつけたいです。また、大学周辺にある自分が見つけたナニ・コレを調査することができるという点に惹かれました。

課題を見つけ、自分の感じたことを客観化し、資料を集め、調査し、報告書を作成する。この過程の中でこれから先必要となってくる課題解決の力が培えると思ったので、このゼミを希望しています。

今回の授業は1年後期の授業で行われる課題発見ゼミのガイダンスだった。様々なゼミがあり、どのゼミに入っても有意義な授業を受けることができるだろう。その中でも私は特に葭森先生ゼミに興味を持った。「徳島の街から何かを発見」という授業で実際に徳島のマチ歩きをして「ナニ、コレ!」を見つけ、課題発見をするものである。私がこのゼミに興味を持った理由として以下のことが挙げられる。

私は県外出身で徳島のことをよく知らず、大学の周りしか生活する上で関わっていない。

せっかく徳島で一人暮らしをしているのであるから、この機会を生かして徳島のことをより知っていききたい。このまま何も知らず徳島で4年過ごすのと、このゼミで徳島のことを学び、課題を発見することで今までと違った視点を持って徳島で生活するのでは大きな違いがあるからである。また、大学の社会的機能としても、徳島大学が地元徳島のことを発信していくことが必要である。

以上が私がこのクラスを希望する理由である。

私が葭森教授のクラスを希望する理由は、地域の隠れた見所を発見するすべを学ぶためである。私は二年時からのコース選択で地域創生コースを希望している。現在日本で叫ばれている東京一極化社会などを打開するべく地方の発展に貢献したいと考えている。なので一年時からフィールドワークを通じた学習を積んでおきたい。

私はこの大学生活の中で広い視野から物事を考える力を養いたいと考えており、そのためにはまず身近なものからきちんと捉えられることができる力が必要であると考え、このゼミで徳島にあるものを実際に目で見て感じ、また友達とも意見交換をすることで非常に価値のある経験や知識を積むことが出来ると思ったからです。

県外から大学進学のため徳島に来て徳島のことをまだ何も知らない自分には、徳島の調査がぴったりだと考えたから。私は何かをしたいと思っても行動力がないが、葭森先生のゼミで、行動力を付けることが出来ると思った。自分たちで課題を見つけそれを追求して行く。このことは大学でだからこそできることだと思う。自主的にはしないであろう課題追求をゼミを通して学んでいきたい。

街歩きでの課題発見を通して、問題点を見極め自分の課題発見にもつなげていきたいから。また、書物に書かれていることを自分の足で真実かどうか確かめ、また現地でしかわからないことなど探求することができるから。他人との感性の違いを理解しまた共有しあい他人の意見についても考えることで思考力を高めたい。そして実際に現地の方との聞き込みや情報交換をすることによっていま最も必要とされるコミュニケーション能力や行動

力を身に着けていきたい。問題点について客観的に判断し他人の意見を尊重しながら徳島が現時点で抱える問題について同年代のメンバーとともに考えていきたい。

県外生であるため街歩きで様々なところに出向きまだ知らない徳島について知識をつけていきたい。そして、グループとの情報交換・意思疎通を通し親交を深めるきっかけにしたい。

期待することとしては、フィールドワークを終えた後、徳島と自身の出身県との共通点・違いなど比較することなどである。

将来、地方公務員となり地域の活性化に尽力したいと考えている。地方公務員として働くうえで身近なものに疑問を持つ姿勢は欠かせない。自分が生まれ育った場所ほど見慣れた場所はないけれど、良いところもまた不便なことも踏まえたうえで課題を発見することから活性化への道が開ける。

私自身徳島県の出身ではあるが、徳島市を歩いて回った経験はほとんどない。徳島市内で自分たちが発見したものや、出会った人々から聞いた話を大学に持ち帰って研究し徳島市の更なる発展につなげることは徳島大学の主要な役割の一つである。篠森先生のゼミを通して経験したことを地元でも生かし地域に寄り添った地方公務員を目指したい。

私が将来、地域事業に関わる仕事をしたいと考えています。地域をより良くするには現状にどのような問題があるかを見つけ出す力が必要です。また問題解決に向けた活動に周りを巻き込むには他人に説明する力がなければなりません。このクラスでは自分が実際にマチを散策する中で課題を見つけ出す感性が問われるとともに、自分の意見を他人と共有し検討する中で相手を説得するために客観的な根拠による説明が求められます。また現地での活動を通して学内だけでは知りえないことや交流ができると期待しています。まとめの作業を通じて調べるだけでなく、結論を他人に有効的に伝えることができる資料の作成や適切な文献の利用など実践的な活動があるのも理由の一つです。グループでのコミュニケーション、共同作業の中でたくさんの意見に触れることで自分の見方についても検討できるし報告書の作成を通じて意見の合意形成ができるようになります。これらの活動は社会人になってからも活かせるものなので私はこのクラスを希望しました。

篠森先生のクラスでは、フィールドワークの一種である写真観察法を実践的に学ぶこと

ができる。民俗学の専攻を希望する自分にとって、フィールドワークを通じた研究ができることは、貴重な経験なのでこのクラスを希望した。